

2014年(平成26年)12月19日(金曜日)

色彩検定 ネット学習で効果

名古屋学芸大 白ら練習問題 半数弱合格

曰進市の名古屋学芸大メディア造形学部ファッショング形学科で、色に関する幅広い知識を問う「色彩検定」一級を受ける学生が、インターネット上で自主学習する「学習管理システム（LMS）」を独自の手法で活用し、合格率向上へ成果を挙げている。

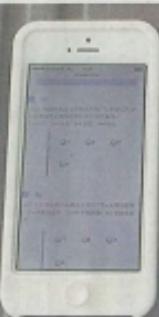
（並木智子）

LMSは、学生が専題を学生自らが作る「スマートフォンにも対応サイトにアクセスして学習意欲を高め、応せるなど工夫なしで登録されている選択問題が順次表示され、解答すると正否が表示される。管理者側の教員は、パソコン上で、各学生のアクセス時間や回答率などが分かり、学習状況を把握できる。

ファッショング形学科で取り組んでいるのは、石原久代教授（右）とや三生。昨年七月から、当時の三年生十五人が、秋の色彩検定一級の合格を目指して活用を始めた。システムで出題される問



スマホやタブレットで問題を解く学生に石原久代教授（後列左）＝曰進市の名古屋学芸大で



問題が表示されているスマホ

優里さんは「正解ではない選択肢も本当にそのものか確認を重ねた。勉強になつた」と話す。四年の岡田結以さんも「テキストをじっくり読んで問題を作り、つくり読んで問題を作ったから内容が深く頭に入った」と効果を実感した様子だ。

本年度の三年生のセミ生十四人も同様に取り組んで検定を受け、十人が一次試験、十一人が二次試験を通過。うち七人が実技や記述式問題の一回は、「次は一年連続で三次試験も通つて合格した。全国的な合格率は、30%台で、同学科は王位を守った。出題も相当する国優秀団体賞も受賞したことで、学生の意欲も高まることができたのだと思つた」と話している。

合格した四年の伊東

優里さんは「正解ではない選択肢も本当にそのものか確認を重ねた。勉強になつた」と話す。四年の岡田結以さんも「テキストをじっくり読んで問題を作り、つくり読んで問題を作ったから内容が深く頭に入った」と効果を実感した様子だ。

本年度の三年生のセミ生十四人も同様に取り組んで検定を受け、十人が一次試験、十一人が二次試験を通過。うち七人が実技や記述式問題の一回は、「次は一年連続で三次試験も通つて合格した。全国的な合格率は、30%台で、同学科は王位を守った。出題も相当する国優秀団体賞も受賞したことで、学生の意欲も高まることができたのだと思つた」と話している。